

## ごあいさつ

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、猛烈な津波と非常に広い範囲での強い地震動、さらに原子力発電所の被害の波及により、東日本に未曾有の被害をもたらしました。死者・行方不明の方は約2万人にのぼり、いまだ被害の全貌が十分にはつかめていない状況です。亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の1日でも早い復興をお祈りしますとともに、飛島建設が微力でも復興にご協力できますように努めてまいります。

さて、東日本大震災は被害の規模の大きさから、復興への道のりは中長期的なものとなり、継続的な取り組みが必要と考えられます。一方で、近い将来に高い確率で発生することが予測されている首都圏直下地震、東海・東南海・南海地震では、さらに大きな被害が発生するという検討がなされており、これらの対策にも力を投じなければなりません。また、さきの台風12号の猛威は、多くの土砂災害を引き起こし、死者・行方不明者が100名（9月12日21:30の内閣府発表）と、水害が多発した2004年の台風23号の被害に匹敵する、平成以降の最大規模の水害となりました。この災害の復旧・復興や近年多発する短時間での集中豪雨への備えも進めなければなりません。このように、日本は世界の中でももっとも自然災害にさらされやすい厳しい環境に置かれており、これらに対しての備えに、今まで以上の取り組みが必要と考えられます。私ども飛島建設は、建設に携わる一員として、その使命をしっかりと認識し、真摯に対応していかねばならないと考えています。

飛島建設は、災害や激変する地球環境から、人々の暮らしと命を守るという建設事業の根源的な使命を「防災のトビシマ」という標語であらわし、防災・減災に関わる技術、環境に関わる技術、社会基盤を維持し持続可能なものとしていく技術など様々な面から、安全・安心な社会を築き、堅持していくことに貢献すべく、全社を挙げて取り組んでいます。第60号となった「とびしま技報」では、当社の取り組んでいる技術開発の成果や建設現場での施工に関わる成果の一部について、26編を掲載しご報告いたします。多くの方々に御高覧いただければ幸いです。

日本の復興と今後の災害への備えなど、皆様の安心安全に、飛島建設の活動が少しでもお役に立ちますよう、一層の研鑽を重ねていく所存でございます。これまで同様、トビシマへの御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします

2011年9月  
技術研究所長  
三 輪 滋